



渡辺利夫
（拓殖大学学事顧問）

人間は不安の器である

人間は誰しも病を不安に思い、死を恐怖します。病や死を恐れるのは、人間がよりよく生きたいと考えているからにほかなりません。不安や恐怖を「あつてはならないもの」として、これを排除しようと努めれば努めるほど、人間は抑鬱と煩悶におとしめられます。その典型が神経症です。

冒頭の言葉は、日本の精神医学の草創期に活躍した医師・高良武久の言葉です。高良の師・森田正馬は「不安常住」こそが人生の真実だともいっています。